

令和7年度 第70回岐阜県PTA研究大会 by 西濃 実践発表様式

題名：養老郡養老町PTA連合会 研究大会より

「PTAの今後の在り方を考える」参加者によるグループディスカッション

PTA名：養老郡町PTA連合会

1. はじめに

養老町の各学校では、限られた時間と人数の中で様々な工夫を凝らした活動を実施しています。この研究大会の内容についても、内容を見直し、養老郡町PTA連合会で価値あるものにすべく、検討してきました。本研究大会では、PTA活動について知っていただき、自分事として捉えてもらうこと。そして、今を生きる子どもたちのために、私たちPTAはどうあるべきなのかを直接意見交換をしながら、これからPTAの在り方を考えることを一つの目的として実施しました。

2. 養老郡養老町PTA連合会研究大会

(1) 当日の流れ

どうすれば参加者がよりたくさんの時間を使って話し合えるようになるかなど役員会で話し合い、来賓の挨拶をなくすなど、この研究大会で行わなければならない内容にしぼりました。

「家族の絆 愛の詩」は町が主催している事業で、家庭教育学級の在宅型で行える活動です。普段、言葉にできない家族への思いを詩（文字）にすることで家族の絆について振り返ります。この活動は、養老町全ての小中学生が取り組みます。また、応募してくださった保護者の作品も審査をして、PTA賞として表彰しています。

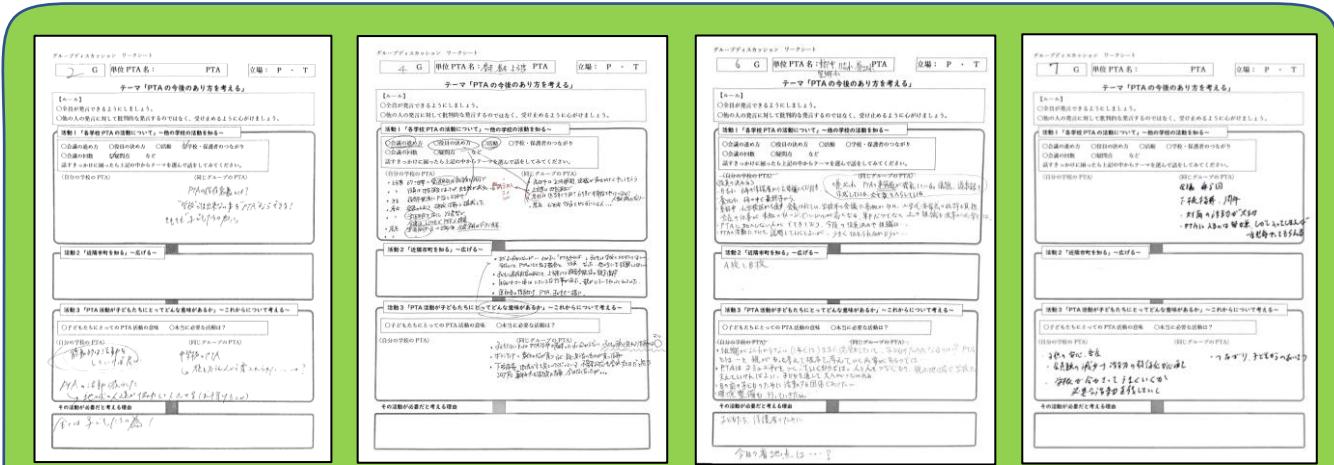
実践発表の意図としては、各校の実践を発表してもらう中で、各単位PTAの活動を知ってもらいます。

今回の発表で、養北小の実践が載っていますので、そちらもご覧ください。

13:00	受付	
13:30	全体会	<ul style="list-style-type: none">○開会の言葉○主催者あいさつ○功労賞表彰・愛の詩PTA賞表彰
14:10	実践発表	養北小学校PTA 「PTAのアップデート」 養北小学校PTA会長
14:30	グループディスカッション	テーマ「PTAの今後の在り方を考える」 <ul style="list-style-type: none">①各学校のPTA活動について②近隣市町を知る③PTA活動が子どもたちにとってどんな意味があるか④発表・全体共有
15:50	閉会・解散	<ul style="list-style-type: none">○主催者あいさつ○閉会の言葉

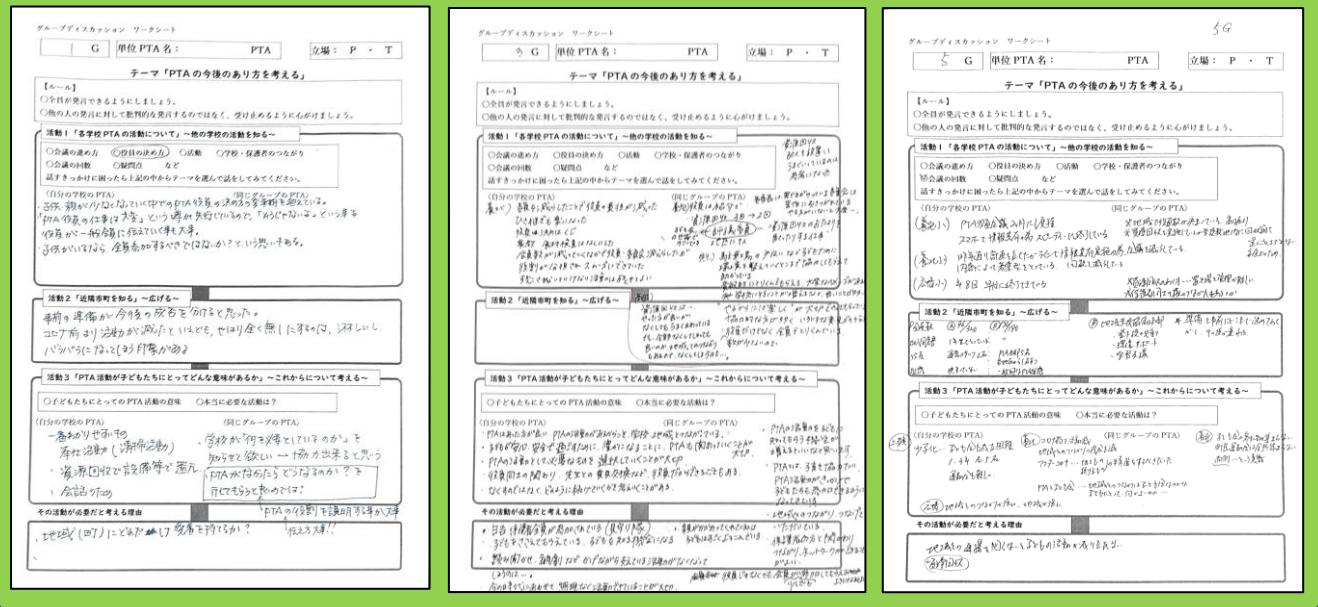
(2) 参加者によるグループディスカッション

PTA 役員や学校の先生方にコーディネーターになっていただき、7つのグループに分かれて話し合いました。活動1では、「各学校のPTA活動について～他の学校の活動を知る～」をテーマに、他の学校の活動を知ることができるように、“会議の進め方”や“役員の決め方”など各学校によって違いがあるのか共有しました。活動2では、「近隣市町を知る～広げる～」をテーマに、養老町の近隣市町のPTA活動について取材したことを郡町PTA会長に話していました。活動3では、「PTA活動が子どもたちにとってどんな意味があるか～これからについて考える～」をテーマに、活動1、2の内容を踏まえ、“子どもたちにとってのPTA活動の意味”や“本当に必要な活動”について交流しました。



各グループと個人にワークシートを配付し、考えをまとめられるようにしました。

こちらは、各グループで出た内容をまとめてもらったものです。



(3) ディスカッションを通して

- ・PTA活動に対する他校の工夫や、役員以外の方の意見など、これから活動を進めていく上で参考になる話が聞けた。
- ・町内のPTA役員さんやPTA役員じゃない方の意見も聞くことができたので、グループワークは良かったなと思いました。
- ・自校の現状、他校のいろいろなやり方、勉強になりました。いいなあって思った点がいっぱいあったので自校でもやってみたい、またなかなかうまく行かない問題点、困っている事も似ていて共感しました。
- ・自分と同じ思いをもってみえる方や違う考えをもってみえる方など貴重な意見をたくさん聞けてすごくよかったです。
- ・郡内の全ての学校関係者が一緒に考え方議論することで、捉え方や考え方がそれぞれに深まったと思うし、ある程度共有できたように感じる。PTAの在り方について、議論を重ね、同一歩調で進めていくことが持続可能な在り方につながると思う。もう一步、次年度に向けて具体的な動きをどうしていくか、今後早急に検討していく必要があると、改めて感じた。
- ・PTAとはどんなものか、今後の改善点などを話すことができるいい機会だった。
- ・PTA継続に向けて仕組みを変えていったり、新しい試みだったりなど今後自校で導入できそうな話を聞いて良かった。
- ・コーディネーターのお陰で楽しく話ができた。疑問に思っていることの参考になることも聞けたし、今後のPTA活動の課題が何なのか理解することができた。

各グループがコーディネーターの進行のもと、それぞれ単位PTAでの活動や困っていること、疑問に思っていることなど気軽に交流する姿が見られました。「分からないこと」も含めて思いを伝え合える、一緒に考えられるつながりの大切さを味わうとともに、PTA活動についての認識が深まり、これまでどこか“他人事”だったものが“自分事”として捉えられるようになったディスカッションとなりました。

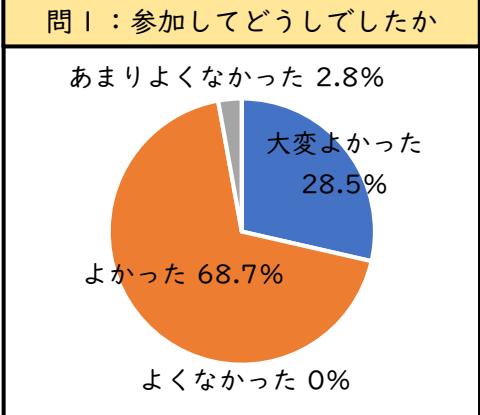


(4) 研究大会後アンケートより

当日は、約80名に参加していただき、参加した方には、2次元コードまたは、紙でアンケートに協力いただきました。アンケートの「参加してどうでしたか」という問い合わせに対しては、95%の方が「参加してよかった」、「大変よかった」と回答していただけました。

実践発表を含め、PTAについて知ってもらうことが、これから養老町のPTAを考える大きな一歩になったように感じます。また、研究大会についても以下のような感想や要望を頂きました。

問1：参加してどうでしたか



問2：その他、研究大会に関する感想や要望について（抜粋）

- ・グループワークは交流の場になるのでいいと思いました。
- ・**共有すべき認識は同じであることが確認できて良かった。**PTA活動の負担を減らしつつも子どもたちのためになる活動と地域のコミュニティを守ってほしい。
- ・どんどん子どもが減る中で、住みやすく子育てしやすい町になるように今回のように本音で話し合って今後を考えていける集まりは必要だと思った。
- ・PTA役員の思いがつながるとよい。「**子どもたちのために」「背中を見せること**」を再認識できた。
- ・PTA関連のイベントに「PTA」とあると役員以外の人は目を通すことなくスルーしてしまうので、呼びかけ方法を考えていけるといいと思います。

3. おわりに

養老郡PTA役員でたくさん話し合う中で、「講師の方に講演していただきながら研修することも大切だけれど、それぞれの単位PTAで抱える問題やこれからPTA活動について考えるために、話し合いの場がある研究大会にしたい」という結論に至り、今回の内容に決まりました。参加者からは、「PTAについて知ることができた」や「親の背中を見せたい」という声が聞こえてきました。本研究大会の“PTA活動について知り、自分事として捉える”という1つの目標が達成されたと考えます。また、今後のPTAの在り方についても「子どもたちのために活動をしていきたい」という思いを共有できたと思います。

アンケートの中には、「『研究大会』と銘打つと“参加は役員だけ”と認識されている方もいるのではないか」や「PTAという響きに抵抗感をもつ人もいる」という意見もありました。より多くの会員にPTAについて知ってもらうことや自分事として捉えられるような周知の方法を考えなければならないと感じます。

これからも養老郡養老町PTA連合会は単位PTAとのつながりを大切にしながら、「子どもたちのため」に活動できるように考えていきたいです。

